



- 甲府やまなみクラブ会長主題：千里の道も一歩から
～ 一歩ずつ着実な歩みを進めましょう ～ 米山 俊彦
- あずさ部長主題：めあて望み ピーター・マウントフォード (甲府)
- 東日本区理事主題：ワイズの方向を見極める 山田 公平 (宇都宮)
- アジア太平洋地域会長主題：大きなインパクトを起こそう ジョウン・ウォング (香港)
- 国際会長主題：より良い世界のために、共に A・シャナヴァスカーン (インド)

甲府やまなみ
ワイズメンズクラブ
2025年 2月
No.29

●今月の強調目標
TOF・FF・HTW

●今月のことば
「蛇の道は蛇」

藤原 一正 君 選

Photo
of
monthly



【1月11日(土)在山梨4クラブ新年合同例会(山梨YMCAにて)】

今月の例会案内 (第29回)

TOF(Time of Fast) 例会

- 日時：2025年2月5日(水) 18:30～20:30
- 会場：山梨YMCA
- 司会：仙洞田安宏 君

- ・開会点鐘 米山 俊彦 会長
- ・ゲスト・ビジター紹介 司会者
- ・ワイズソング 一同
- ・会長挨拶 米山 俊彦 会長
- ・今月のことば 藤原 一正 君
- ・おにぎりタイム
- ・会員卓話 松本 公夫 君
「ケニア今昔—JICAの経験を通して」

- ・諸報告(前期会計報告・次期会長選出他)
- ・ハッピーバースデー&アニバーサリー
- ・YMCAの歌 一同
- ・閉会点鐘 米山 俊彦 会長

1月のデータ

会員数:11名 例会出席:7名 例会出席率:64%
 ビジター:利根川恵子・利根川太郎(川越)、大和田浩二(松本)、甲府:7名・甲府21:26名・富士五湖:7名
 ニコニコ:55,475円(能登半島被災地支援へ)

ハッピーバースデー

メン:遠藤 成人(2/6) メネット:米山 千恵(2/10)

世界との繋がりを実感した 新年合同例会 渡邊 隆

1月11日(土)11:00より山梨YMCA3F「大澤英二記念ホールベテル」にて山梨4クラブの新年合同例会が開催されました。講師として利根川恵子アジア太平洋地域直前会長(川越クラブ)、ビジターとして利根川太郎川越クラブ会長、大和田浩二東日本区書記(松本クラブ)、甲府クラブ(7名)、甲府21クラブ(26名)、富士五湖クラブ(7名)、甲府やまなみクラブ(7名)の総勢50名での開催となりました。

快晴のもと、会場ホールより富士を眺めながら、甲府やまなみクラブの初めてのホストクラブとして、数日前から準備に追われましたが、皆さまの協力を頂き、第一部の開会です。

米山俊彦会長の開会点鐘、セレモニー後、新春講演は利根川アジア太平洋地域直前会長に「世界に繋がるワイズメンズクラブ」と題して講演を頂きました。国際での会員現勢はアフリカ地域で増員、インド地域、韓国地域で減、2024年2月現在前年比2,432名減、そして我々アジア太平洋地域は下表のとおり減っている状況です。

区	2023年2月		2023年8月		増減
	クラブ数	会員数	クラブ数	会員数	
オーストラリア	8	120	8	115	-5
東日本	59	774	56	726	-48
西日本	76	1,316	74	1,281	-35
フィリピン	13	181	14	197	16
南東アジア	36	450	35	444	-6
スリランカ	9	70	7	69	-1
台湾	26	520	26	540	20
合計	227	3,431	220	3,372	-59

【アジア太平洋地域の会員数の推移】

利根川直前会長は任期中の活動距離が地球一周半とのことでした。今夏熊本で開催される、アジア太平洋地域大会への参加も呼びかけられました。



【利根川アジア太平洋地域直前会長の講演】

講演後、全体撮影では和気藹々とした様子が伝わる写真ができました(1ページ)。

第二部懇親会は甲府21クラブ奥水順雄会長による開会のご挨拶を頂き、乾杯は富士五湖クラブ原淑子会長の発声で、楽しい会食になりました。そして能登半島における、昨年1月1日の地震、秋の豪雨災害の支援を目的のニコニコをお願いしたところ、利根川直前会長からも多大なご奉仕を頂き、総額60,000円近くの募金ができることになり、東日本区を通じ支援することができました。その後は新入会員の紹介や山梨YMCAの活動紹介が映像で行われ、甲府クラブ小倉恵一会長による閉会の点鐘となりました。

甲府やまなみワイズは合同例会のホストクラブは初めての経験で、試行錯誤のプログラムでしたが、会員の協力で滞りなくできたことは大きな収穫だったと思います。これからも他クラブとの交流を増やし、甲府やまなみワイズの翼を広げていきましょう。

やまなみ参加者:米山・松本・大澤・藤原・三井・仙洞田・渡邊



【米山会長の挨拶】

第14回お正月を遊ぼう

松本 公夫

1月13日(月・成人の日)、毎年恒例の甲府駅北口まちづくり委員会主催の「お正月を遊ぼう」が、2日前から悪天候が続き心配されていましたが、当日は穏やかで温かいイベント日和で開催されました。



樋口雄一甲府市長を迎えての開会式の後、甲府囃子保存会の皆さんによる獅子舞が披露され、正月気分を盛り上げていました。

思えば今は亡き山梨YMCA総主事だった大澤英二氏は甲府クラブ会員と折り紙の飛行機を担当されてきており、現在も会員に引き継がれて参加されております。2年前から甲府21クラブが「羽根つき・独楽回し」を担当、やまなみクラブは「けん玉・メンコ」を担当し、各クラブは夫々有志が参加され、やまなみは米山会長(主催者)、仙洞田さんと私松本が参加しました。

今回、やまなみが担当したけん玉コーナーには、



山梨に初めて日本語学校に留学してきた、デンマークとドイツからの女性二人がきたので、勧めてみました。夢中に練習をしていましたが、二人は苦戦状態でした。けん玉上手の我が友を紹介し約30分練習後、ついに4か所へ玉を乗せるのに成功し満足していました。何処でけん玉を購入できますかと聞かれたので、駅前のデパートを紹介しました。

私は県から「外国人地域生活サポーター」を委嘱されている為、外国人への情報提供は常に心掛けていました。二人は山梨の観光について興味があるとのことなので甲府の名所旧跡や2月の豆まき、4月の信玄公祭り等紹介し、名刺を渡しておきました。翌日二人はけん玉を購入して、学校でクラスで友達と楽しんでいると連絡がきました。

イベントは、スケジュールに沿って進行され、午後3時の終了時間が来たので片付けとなり、無事終了しました。

温故知新～史料室の書棚から

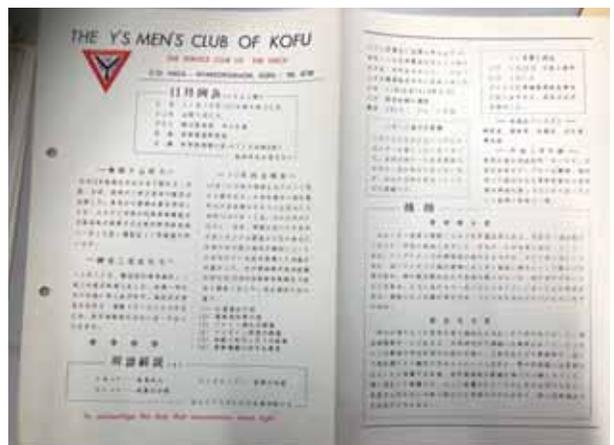
仙洞田安宏

山梨YMCA常議員の岩間孝吉さんからの情報で、昨年11月29日にNHKで放送された「時をかけるテレビ-食卓のかげの星条旗」(1979年放送)で、甲府ワイズのチャーターメンバーで1952年にクラブ会長、1951-60:山梨Y理事(山梨Y英語学校初代校長)を務められた曾根康夫さんが何度か映し出されていたのを視聴しました。番組では曾根さんは、駐日アメリカ大使館内の、アメリカ小麦連合会「駐日次席代表」職で、アメリカ小麦協会代表リチャード・バウム氏の来日時の通訳を務め、重要な橋渡しの役目を担ったことが報道されていました。

史料室に保存されている1961年11月の甲府クラブのブリテン(右写真)の「横顔」コーナーに曾根さんの紹介があったので、下記に転載します(原文のまま)。

「チャーター会員で規約にはない半額会員である。戦後既に渡航数回におよび、甲府の曾根に非ずして、日本の、いや世界の曾根になりつつ

ある。アイデアマンで天野県政の雄大なるものは、すべて彼の頭から生まれ、特にアイオワの豚は曾根にはじまり曾根に終るといった蔭の功労者である。彼の風呂敷は広大で生地も悪くないが、結び目がゆるいきらいがある。人さし指でカラーをいじくりネクタイに至って止む特技がある。徹底した人生観の持主だが、つじつまを合わせないのが玉にきずである。」





山梨 YMCA 総主事
中田 純子

「新たな変革と成長の年に」

先日1月11日、山梨YMCA本館3階大澤英二記念ホール「ベテル」にて、甲府・21甲府・富士五湖・やまなみワイズメンズクラブ合同の新年例会が開催されました。主幹ワイズ会長の挨拶では、2025年巳年を迎え、蛇の脱皮に象徴される新たな変革と発展の年として、ワイズメンズクラブの協働強化の必要性が強調されました。山梨YMCAは、世界YMCAの一員として、そして日本YMCA同盟の一翼を担う組織としてグローバルな視点と地域に根ざした活動を融合させながら、事業のブラッシュアップを行ってきました

しかし、急速な人口減少、デジタル社会の進展、地域での子育て環境の変化など、社会の変化のスピードは私たちの想像をはるかに超え、各事業の利用者数も危機的状況が見られ全体で苦難の時を迎えています。この変革の時代に対応するため、山梨YMCAは世界に連なるYMCAの共通グローバル戦略である「Vision 2030」に則り、新たな姿への変革を目指します。「Vision 2030」では、若者のエンパワーメント、地域社会の強化、環境の持続可能性などを主要な目標として掲げており、山梨YMCAもこれらの指針に沿って活動を展開していきます。

これからも、ワイズメンズクラブとの強固なパートナーシップを基盤に、日本YMCA同盟や世界YMCAとのネットワークを活かしながら、地域社会の課題解決に取り組んでいきます。この2月には毎年行われている「ピンクシャツデー」を実施します。これはいじめ防止を目的とした国際的な取り組みです。今年も皆様に賛同して

いただき、それぞれのお立場で山梨県内、長野県内にて実施いただきたいと思います。(下記参照)

この変革の時、皆様一人ひとりのアイデアと行動が、山梨YMCAの未来を形作ります。新しいアイデアを恐れず、積極的に提案し、実行していく勇気を持ち続け、私たちYMCAは、蛇の脱皮のように新たな姿へと変わることを希望し変化を恐れることなく成長していく年にしたいと思います。具体的には、会員数を10%増加させ、地域のニーズに応えた新規プログラムを立ち上げることを目指します。どうぞ、山梨YMCAに賛同していただける方の発掘とユースリーダー育成事業にご協力いただきまして、これからも、より良い地域社会、世界の平和の創造に向け寄り添い歩んでいただきたいと思います。

山梨 YMCA ピンクシャツ・ウィーク
2025年2月25日(火)~28日(金)
~たいせつなわたし たいせつなあなた~

全国のYMCAでは毎年2月の最終水曜日を「ピンクシャツデー」として、いじめ防止のキャンペーンを行っています。山梨では各事業所(保育園、児童発達支援事業、学童、高齢者デイサービス、教養教室等)において「いじめ」や「こどもの人権」に関するアクティビティを日常の活動の中で取り上げ、期間中はいじめ防止のシンボルとして、ピンクのTシャツや小物を身につけ、啓発活動を行います。自分のことも他者のことも大切にできる関係性に支えられた地域社会—ポジティブネット—を山梨に。皆様のご参加・ご協力をお願いいたします。

YMCAピンクシャツパレード 2月26日(水)
15:30~17:30 甲府市役所~銀座通り~YMCA

期間中甲府市役所にていじめ防止キャンペーンパネル展を行います。



昨年のパレード

これからの予定

- ✓2月 8日(土) あずさ部評議会(山梨YMCA)
- ✓3月 5日(水) 3月例会(山梨YMCA)
- ✓3月8日・9日 次期クラブ会長・部役員研修会
- ✓3月26日(水) クラブ役員会(山梨YMCA)
- ✓4月19日(土) 野外例会(北口広場清掃)

今月のことば

藤原 一正

「蛇の道は蛇(じゃのみちはへび)」

同類のことは同類が一番よくわかるというたとえ。蛇の通る道は、他の蛇がよく知っているとの意から。「蛇の道は蛇」の意味は、その道のプロに聞くのが一番であるということです。同じ業界にいる人、または同じ専門分野に従事している人なら、その道に関しては、深く熟知しているので、誰よりも頼りになるということを表した言葉です。同じ世界の人、同じ仕事をしている人、同じような仲間なら、少しのヒントで一般の人が理解できなくても、的確に本質がわかるという意味で使われます。

今年は蛇年ということで、へびが脱皮して生まれ変わることを意味しているとのことです。蛇というと必ずしもいい意味でとらえられないことも多いかと思いますが、私も専門家なのでいろいろな人に頼られるようになりたいと思います。

「時をかけたアイオワの豚」

甲府やまなみクラブ・2025年2月ブリテン「温故知新～史料室の書棚から」の追補として
甲府やまなみワイズメンズクラブ 仙洞田安宏

昭和34年(1959)、山梨県は8月の台風7号と、9月の台風15号(伊勢湾台風)の二つの台風に相次いでみまわれ、明治40年以来の多大な被害を受けました。

その当時、アイオワ州に住むリチャード・トーマス氏は第二次大戦後、GHQ進駐軍の軍曹として山梨県軍政部に駐留していたことがあり、県民の被災に心を痛め、種豚を贈り、農業復興の支援を州内に呼びかけました。その背景には、戦後、山梨県の八ヶ岳山麓の清里で、キープ協会を創立し、酪農、畜産による日本の農業改革に取り組んでいた米国人(GHQ退役軍人)ポール・ラッシュ博士の影響があると思われます。その当時、ラッシュ博士は米国からジャージー牛などの種牛、ランドレースなどの種豚などを輸入し、清里で育成試験を行い、国内普及を図っていました。

この趣旨に賛同したトーマス氏は種豚を贈って、山梨の畜産振興を支援することを州内の人々に呼びかけました。アイオワ豚は、昭和35年1月20日、米国空軍機の協力で羽田空港に到着。横浜の検疫所で検査された後、貨物列車で2月5日、甲府駅に到着。甲府の住吉種畜場(現在の県職員研修所)に納められました。

以上はウェブサイトからの引用ですが、このことが契機となり、山梨県とアイオワ州は姉妹都市の契約を結び、これが日米で締結された姉妹州県の第1号となりました。

これらについては、ブリテンの「横顔」からも推測できますが、当時山梨県知事のブレーンだった曾根康夫さんが陰で尽力したと思われます。

話はここで終わらなくて、2017年、JC(甲府青年会議所)のメンバーが、アイオワの豚肉を使った「第1回山梨ベーコンフェスティバル」というイベントを開催しました。これには、JCのOBで、現在甲府やまなみクラブのメンバー数名が主催者として中心的な役割を担いました。

甲府ワイズの会員が種を蒔いた「アイオワの豚」が、57年の時を経て、「ベーコンフェスティバル」という形で、やまなみワイズの会員が実を結んだ訳で、文字通りTV番組名の通り「時をかける」物語です。

なお、今年も4月5日・6日に「山梨ベーコンフェスティバル」が開催されます。